

令和7年度 政策評価書（事前の事業評価）要旨

担当部局等名：防衛装備庁技術戦略部技術計画官
評価実施時期：令和7年8月

事業名	次期潜水艦（V L S 搭載型）のトータルシップ最適化設計に関する研究	政策体系上の位置付け
		スタンド・オフ防衛能力 防衛技術基盤の強化
事業の概要等	○ 事業の概要 V L S（※1）搭載潜水艦の創製に向けて令和7年度から実施する「水中発射型垂直発射装置の研究試作」の成果を含む各種装備品等を、潜水艦という限られたサイズの中に組み入れた上で被探知防止性能及び運動性能を考慮したV L S 搭載潜水艦の設計検討（トータルシップ検討）を実施するもの。 ※1 V L S Vertical Launch System 垂直ミサイル発射システム ○ 総事業費（予定） 約39億円（研究総経費） ○ 実施期間 令和8年度から令和11年度まで研究委託を実施し、その成果を獲得する。 ○ 達成すべき目標 ア 被探知防止性能低下局限技術の獲得 イ 運動性能低下局限技術の獲得 ウ ミサイル発射時の潜水艦姿勢維持技術の獲得	
政策評価の観点及び分析	○ 必要性 令和4年12月に閣議決定された防衛力整備計画においてスタンド・オフ防衛能力の強化として、発射プラットフォームの更なる多様化及び水中優勢獲得のため、V L S 搭載潜水艦の取得を目指し開発することが明記された。潜水艦という限られたサイズの中にV L S を組み入れた上で海上自衛隊のニーズに合致した被探知防止性能及び運動性能を有するV L S 搭載潜水艦の創製に向けて、V L S 搭載潜水艦のトータルシップ最適化について研究する必要がある。 ○ 効率性 水中発射型垂直発射装置の研究等の成果を踏まえ、V L S 搭載潜水艦の設計検討を行いつつ、さらにその結果を基に艦艇装備研究所で研究試作した「潜水艦コンセプト評価シミュレータ」（※2）を活用して運動性能等のシミュレーションを実施することにより効率化を図る。 ※2 潜水艦のバーチャルモデルを構築し、様々な運用環境下において潜水艦全体の能力評価を行うシミュレータ ○ 有効性 本技術を適用することで、V L S という大型装備品を潜水艦という限られたサイズの中に組み入れた上で被探知防止性能及び運動性能を有するトータルバランスに優れたV L S 搭載潜水艦を設計することができる。 ○ 費用及び効果 机上検討及びシミュレーション環境上で、条件を変更して試験を行うことで費用の抑制を図る。本事業により得られた技術を適用することで、トータルシップ性能に優れたV L S 搭載潜水艦の設計を行うことができ、効果は高いと見込まれる。	
総合的評価	本事業を実施することにより、上記達成すべき目標で述べた各種技術の確立が見込まれる。これらの成果については、仮作及び試験により検証し、これらの検証結果が得られた場合には、スタンド・オフ防衛能力及び技術競争の激しいこの分野での技術的優越の確保を図ることができ、その結果、我が国のスタンド・オフ防衛能力及び技術力の強化に資することが見込まれる。これらは自衛隊のニーズに合致した高度な防衛装備品を創製するための極めて重要な成果であり、最終的に政策目標である我が国自身の防衛体制の強化につながるものであると評価できる。 以上の点から、本事業は国家防衛戦略及び防衛力整備計画に記載されたスタンド・オフ防衛能力及び防衛技術基盤の強化に資する研究である。	

	り、また、政策体系上の位置付けも一致しており、いずれの政策評価の観点からも本研究に着手することは妥当であると判断する。
有識者意見	本事業の必要性等について異論はない。
政策等への反映の方向性	総合的評価を踏まえ、令和８年度概算要求を実施する。